

# ヒマワリ(ヒグルマ)

牧 幸 男

ひまわり

向日葵は 金の油を 身にあびて ゆらりと高し ひのちひささよ

前田 夕暮

「炎天下、金色の油を塗ったように輝くヒマワリのゆらりと高い大輪に比べれば、太陽も小さく見える」の意味であろう。炎暑にふさわしい植物がヒマワリである。真夏の太陽に立ち向かって、負けじと咲く姿は頼もしくもあり、暑さ負けの人間を激励してくれるような感じがし、私の好きな植物である。



ヒマワリは、キク科の一年草で、茎は直立し高さは2m以上に成長する種類もある。茎は単一又は上部で分枝し、葉とともに短剛毛が覆っている。7~9月頃、茎及び枝の頂に大型の頭花を横向きに開く。花は観賞用にされるが種子は食用油に利用する。原産地は北アメリカ大陸西部であると考えられている。インディアンは食用作物として利用するだけでなく、死者の墓に冥途までの食料として器に入れて供えていた。

アメリカのモルモン教徒に伝わる話として、西部の自由天地を求めて故郷を出発した時、先遣隊は道々この種子を播いて行った。翌年の夏、ワゴンに乗ってその後を追った人々はヒマワリの花の道をたどればよかったと伝えられている。

この植物をヨーロッパに紹介したのは、1532年インカ帝国を侵略したフランシスコ・ピサロで、略奪した黄金と一緒にマリーゴールドと名前です페인へ運んだ。マドリッド植物園で栽培を開始以後、この花の美しさと、瘦果(種子)に含まれる油が食用になることから、世界中に広まった。わが国に渡来した年代は、白井光太郎著『植物渡来考』(1925)によれば、寛文6年(1666)に出版された中村惕斎著の『訓蒙図彙』に、天蓋花という名の記載されたのが最初である。

国内で栽培されるようになって、貝原益軒著『大和本草』(1708)で「向日葵モ漢文也。国俗向日葵トモ、日マワリトモ伝。花ヨカラズ最モ下品ナリ。タダ、日ニツキテ回ルヲ賞スルノミ。」と述べ花の地位は低かった。

現在では、ヒマワリの美しさから様々な品種改良行われ、ロシアヒマワリのような大輪の花や、矮性のヒマワリ、更に様々な花の色や葉が変化した新種も生まれている。ヒマワリと聞くとゴッホを思い出す方が多いかもしれない。多くの人に愛されるヒマワリは、フランスのルイ14世は好み、この花を自分の紋章にし、自分を「太陽王」と呼ばせ、権力を示していた。また、オスカーワイルドもこの花を好み、新しい耽美(唯耽)主義文学の象徴にしていただけでなく、良く胸に挿して歩いてたと伝えられている。日本弁護士連合会のバッジは、公正を示す天秤の回りをヒマワリの花で囲っている。太陽に向かって花開くヒマワリを、正義のシンボルに例えているからである。また、ペルーやロシアでは国花とし、アメリカのカンサス州では州花にしている。

わが国でヒマワリを詩歌の対象にするのは比較的新しい。

花了へて 黒き実たる 向日葵は 同じ姿勢で 一日庭に立つ

宮 柊二

向日葵が 好きで狂いて 死にし画家

高浜 虚子

植物名の由来は「日本名は日廻りで黄色で大きな頭花から太陽を連想し、日について廻ると誤認したための名、漢名は日向葵である。」と牧野富太郎博士は述べている。この太陽の運行に花の位置が変わることについては、植物には光線の強い方に傾く日向性はあるが、ヒマワリだけが著しいわけではない。牧野富太郎博士も「多少蕾が太陽に向かって廻ることもあるが、花は動くことがない。」と述べている。

彼はこの事を実証するため、一日中ヒマワリのそばに立って検証し、太陽の動きにつれて廻ることはないと確認したのである。この報告は一時大騒ぎになったこともあったが、科学の実証は受け入れられたのである。別名は日車、日車草、日回り草、迎陽花、望日連、羞天<sup>げいようか ぼうじつれん しゅうてん</sup>花、天竺葵<sup>か</sup>等があるが、いずれも太陽に関係した命名である。

ヒマワリが太陽を回るという説は古く、ギリシア神話でアポロンを愛したクリュティが、一日中ひたすら太陽神のアポロンを目で追っていたが、ついに願いはかなわず9日目には足は地面に根付き、顔は美しいヒマワリに変わってしまった話がある。更に、フランス語ではTournesol で tourne は向きをかえる、sol は太陽を示し、太陽の方向に向きを変える意であり、英語では Sunflower、ドイツ語では Sonnenblume と太陽との関係を示している。

学名は Helianthus annuus で、属名は helios (太陽) と nathos (花) の合成語で太陽の花を示し、種小名は一年草の意味である。

ヒマワリは食用として世界に広まったが、薬用にも広く利用されてきた。種子は生薬名を「向日葵子<sup>こうじつきし</sup>」と呼び、出血性下痢や利尿剤、腎臓病や頭痛、気管支炎に、油は高脂血症の予防や血中コレステロールの低下に効果があると言われている。但し、西洋医学や民間薬の利用が主で、漢方では利用しない。

食用は、ヒマワリ油の消費が伸びているが、煎った種子を中国や米国ではおやつとして好まれている。また、ペットや小鳥の餌として利用されている。更に、ディーゼルエンジン用燃料 (バイオディーゼル) として利用する研究も進められている。

花言葉は、「あこがれ」「私の目はあなただけを見つめる」「熱愛」「愛慕」等がある。



撮影：スペイン (ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ)

